

会議議事録

当日司会及び議事記録者：鮭川幸乃

会議名	平成 30 年度 第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 30 年 7 月 10 日 火曜日 18:30~20:30 (2 時間)
場所	マロニエ医療福祉専門学校 3 号館 演習室 1・2
出席者 (敬称略)	<p>①評価委員</p> <p>松島陵介 (清田建設工業株式会社福祉事業部 K.connect 管理者兼サービス管理責任者)          北條 豊 (合同会社あゆみの森 デイホームあゆみ 代表社員)          川村祐也 (医療法人常磐会 緑の屋根診療所)          須藤智宏 (医療法人心救会 小山富士見台病院)          馬込公子 (公益社団法人 栃木県看護協会 常任理事)          中里佳純 (大澤歯科医院)</p> <p>(計 6 名)</p> <p>②学校教職員</p> <p>五十嵐トヨ子 (マロニエ校長)、南木昭代 (小山校長)、宮内 修 (マロニエ副校長)、          鷹觜貴久美 (マロニエ副校長)、中島賢二 (福祉心理学科長)、金久保 浩 (介護福祉学科          長)、矢口 剛 (理学療法学科長)、渡邊厚司 (作業療法学科長)、阿部未映子 (看護学科長)、          佛田康子 (歯科衛生学科長)、小林秀子 (センター長)、鮭川幸乃 (教務部)、          絹谷幸男 (事務局長)、小島伸彦 (経理課長)、半田享 (総務課長)、水代貴士 (広報課長)</p> <p>(計 16 名)</p> <p>欠席：最能 香 (小山副校長)</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価委員会 次第</li> <li>・平成 29 年度自己点検・自己評価結果</li> <li>・マロニエ医療福祉専門学校・小山歯科衛生士専門学校 平成 30 年度教務事業計画</li> <li>・平成 30 年度学校法人産業教育事業団組織図 (簡易業務分掌付き)</li> <li>・学校評価ポイント平均レーダーチャート</li> <li>・学校関係者評価 評価記入シート (外部委員のみ)</li> </ul>
進行 議題内容  各詳細は 別紙の通り	<p><b>1. 開会 (挨拶、配布資料確認)</b> 開会が宣言された後、配布資料の確認が行われた。</p> <p><b>2. 出席者紹介 (評価委員、学校教職員)</b> 各出席者の自己紹介が行われた。</p> <p><b>3. 校長挨拶と学校概要説明</b> 五十嵐校長より開会の挨拶が行われた。(別紙参照)</p> <p><b>4. 学校関係者評価の進め方説明</b> 今年度より年度内 2 回開催が決まった為、再度司会より 2 回開催の趣旨とそれぞれの議          題について説明 (別紙参照) があった後、本会の進め方の説明が行われた。委員には①~          ⑩の各担当からの解説を聞き、評価が適切か不適切か判定を行い、意見を頂きたい旨が説          明された。</p>

## 5. 自己評価結果の解説とその評価

平成 29 年度自己点検・自己評価結果の概要解説が以下の順に進められた。

次第に則り、大項目①～⑩の各小項目の評価について担当者から概要及び改善対策の解説が行われた。大項目③と④に関しては学科毎に分かれている為、時間の都合上評価 3 (ほぼ適切) 以下の項目に絞っての解説となった。

また、数項目のごとに少々時間を取り、外部委員による評価記入シートへの記入が行われた。各小項目と総合評価ポイント、委員による評価内容等は別途「学校関係者評価報告書」に記載されている。(ホームページ「情報公開」)

- |           |       |
|-----------|-------|
| ① 教育理念・目標 | 校長    |
| ② 学校運営    | 校長    |
| ③ 教育活動    | 各学科教務 |

*評価結果の判定 (外部委員)*

*配布された評価記入シートに記入 (以下同様)*

- |        |      |
|--------|------|
| ④ 学修成果 | 各教務部 |
|--------|------|

*小休憩 (約 20 分)*

- |            |     |
|------------|-----|
| ⑤ 学生支援     | 学生部 |
| ⑥ 教育環境     | 総務課 |
| ⑦ 学生の受入れ募集 | 広報部 |

*評価結果の判定 (外部委員)*

- |             |     |
|-------------|-----|
| ⑧ 財務        | 経理課 |
| ⑨ 法令等の遵守    | 副校長 |
| ⑩ 社会貢献・地域貢献 | 副校長 |

*評価結果の判定 (外部委員)*

## 6. 平成 30 年度教務事業計画説明 (担当：校長・統括部長)

配布資料の「マロニエ医療福祉専門学校・小山歯科衛生士専門学校 平成 30 年度教務事業計画」を基に、中長期目標 (3 ヶ年計画) である「魅力ある学校、専門職連携教育 (IPE) の実現」と今年度の重点課題についての説明が行われた。(別紙参照)

## 7. 学校関係者評価の総評と意見交換

議事の審議終了後、五十嵐校長より総評、その後意見交換の時間が設けられた。

(別紙参照)

最後に司会から次回開催が 12 月になることと詳細は後日連絡する旨が告げられ、閉会となった。

## 別紙

### 3. 校長挨拶

常日頃より当校の教育活動に際しましては、ご理解とご支援を賜り心より深く感謝申し上げます。

この委員会は職業実践専門課程認定の維持は勿論、学校運営についての助言や指導を頂くことができる有意義な機会となっています。この委員会が発足して5年目を迎えるわけですが、昨年度までの取り組み法として、年度ごとの重点課題を定め学校運営方針を作成し、PDCAサイクルに沿って実際の運営を行い、年1回の学校関係者評価委員会を開催しておりました。しかし、年1回の開催では評価結果から改善までつなげる過程が不透明であり、取組の成果を委員の皆様へ明確に提示できませんでした。そこで平成30年度より、年2回の開催とさせていただきます。2回目は12月開催を予定しております。委員の皆様には大変負担をおかけしますが、何卒よろしく願いいたします。

### 4. 学校関係者評価の進め方説明

<年度内2回開催について>

今年度策定した重点課題の一つに「職業実践専門課程の実質化」があります。これが2回開催の大きな目的です。

以前までは年度内に1度委員会を開催し、前年度学校運営に対する評価結果を報告し、精査していました。しかしそれだけで終わってしまい、精査されたものがどのように学校運営に反映されたのか、また、学校教務側としてもどう活かせば良いのかがわかりにくい状態にあったというのが実状でありました。

今年度からは、1回目で前年度の学校運営の評価を精査し、出された意見を今年度、もしくは来年度の運営にどのように活用するのかをまず検討します。2回目で、1回目の委員会を経た上での今年度の学校運営状況を報告し、いただいた意見と1回目の委員会で出た意見を併せて次年度の重点課題や教育課程の編成に反映させます。

1回目で昨年度の評価、2回目でリアルタイムの活動を報告することで、より医療福祉の現場と密接な連携を取り、学校側は自分たちが行っている教育活動内容をさらに見直し意識することができ、それが職業教育の質の確保にもつながると考えております。

### 6. 平成30年度教務事業計画説明

<中長期目標について>

昨今の現場では医療技術の複雑化、高度化に伴い、より質の高い医療実現のために多種多様のスタッフが患者の情報を共有しながら連携するチーム医療が推進されています。

また医療職を養成する機関では、学生にチーム医療の重要性を理解してもらうために多職種連携教育（IPE）が行われており、自身の目指す職業の役割や専門性、責任を理解できるような指導を行っています。

そこで本校では、7学科ある医療福祉の総合的学校である強みと、経験豊富な教員がいるという環境を活かし、チーム医療を実践するための能力の修得を目指して多職種連携教育を行っていきます。

<平成 30 年度の重点課題について>

・体験入学参加者の出願率強化

18 歳人口の減少を考えると、経営面を考えてもいかに入学者を確保するかが問題。そのための手段として体験入学参加者を確実に出願に結び付けることを強化していきたい。

・全国平均を超える国家試験合格率

入学する学生の多様化が広がっており、教員がその激しい変化に即座に対応するのは難しいところもあるが、最終的には合格率 100%を目指していかないといけない。まずは段階的に全国平均を常に超える合格率を目標としてあげる。

・定員充足率の上昇（休退学対策）

出願率強化に関係する部分もあるが、その他に途中で休退学してしまう学生も減少させていきたい。昨年度は全体で 4.6%（看護通信除く）の退学率であった。本校の現状を加味すると、少し大きい。

・FD 活動の充実（授業研究、学会、研修会）

教育の質の向上のために充実を図る。今年度既に教員間で IPE や学生指導等のワーキンググループを立ち上げ、取り組みを行っている。

・職業実践専門課程の実質化

・学生サポートセンターの充実（キャリア支援、学習支援、生活支援、メンタル相談等）

学生の多様化に伴い、様々な支援が必要になってくる。以前から学生部として支援を行ってきたが、今年度から名称を「学生サポートセンター」と改め、様々な支援を強化していく。

・学習成果の測定

本校で学んだことが卒業して社会に出た時に本当に役に立っているのか、卒後 1～2 年の卒業生や就職先にアンケートやインタビューで調査し、社会と本校カリキュラムの差を埋めていく試み。学習サポートセンターのキャリア支援の部分で取り組んでいく。



「専門実践教育訓練」の指定（社会人の学び直しを支援）

指定を受けた学校で学ぶ社会人に対して授業料の一部が返還されるという制度。独占業務の資格が取得できる学校（学科）が指定を受けられる。指定を受けるためには、全国平均を超える国家試験の合格率と入学者の 80%がストレートで卒業していることが条件。本校では現在助産学科のみ指定を受けている。

また、介護福祉学科も条件をクリアしており、来年度入学の学生から適用される予定。

## 7. 学校関係者評価の総評と意見交換

<総評>

多くの評価項目がありましたが、少しでも当校の運営のことをご理解いただけますと幸いです。また、指摘や疑問点があるところにはどうぞ忌憚なき意見をいただき、それを基に次の委員会で良いご報告が出来るよう最善を尽くしていきたいと思っております。本日は長時間に渡り評価判定していただき、ありがとうございました。

<馬込様より>

配布資料として業務分掌付き組織図があったのがとても助かった。どこの部署・学科がどのようにリンクして機能、運営しているのか概略が分かった。

以上